

しゅんぎく
(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
べ と 病	生育中	○ 株間を広くして通気性を良くする。ハウスでは多湿にしない。

(2) 農薬の使用方法
○しゅんぎく(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	炭疽病	備考
11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル	○	ー

○しゅんぎく（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	アザミウマ類	アブラムシ類	コナジラミ類	ハクサイダニ	マメハモグリバエ	ヨトウムシ	備考
3A	ペルメトリン	アディオン乳剤				○			防除指針では「ハクサイダニ」で掲載
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤		○					防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	ジノテフラン	アルバリン顆粒水溶剤		○					防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	ジノテフラン	スタークル顆粒水溶剤		○					防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	ニテンピラム	ベストガード粒剤		○	○		○		防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「マメハモグリバエ」で掲載
6	エマメクチン安息香酸塩	アフーム乳剤	○				①		防除指針では「アザミウマ類」、「ハモグリバエ類」で掲載
15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤	○				○	○	防除指針では「アザミウマ類」、「マメハモグリバエ」、「ヨトウムシ」で掲載
17	シロマジン	トリガード液剤					①		防除指針では「ハモグリバエ類」で掲載

①ハモグリバエ類での登録

せり

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
葉 枯 病	生育中	○ せり田の水位をできるだけ下げて散布する。 ○ 抵抗性品種を作付けする。

(2) 農薬の使用方法

○せり (殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	葉 枯 病
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤	○
11	アゾキシストロビン	アミスター20フロアブル	○

○せり（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	アザ ミウマ 類	アブ ラムシ 類	備考
3A	エトフェンプロックス	トレボン乳剤		○	防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	ニテンピラム	ベストガード水溶剤		○	防除指針では「アブラムシ類」で掲載
5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤	○		防除指針では「アザミウマ類」で掲載

たまねぎ

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
べと病	植付前 生育中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連作をしない。 ○ 発病畑では、3～4年間他作物の輪作を行う。 ○ 排水、風通しのよい畑地を選ぶ。 ○ 散布する薬剤には展着剤を加用する。 ○ 年内と春先には場をていねいに見てまわり、罹病株の除去を徹底する。
黒斑病	生育中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連作をさける。
さび病	植付前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 堆肥、石灰を適正量施用する。
黒腐菌核病	植付前 定植時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連作をしない。 ○ 発病畑では、4～5年間他作物の輪作を行う。 ○ 無病苗を選んで定植する。
腐敗病	生育中 収穫前 収穫後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多肥をさける。 ○ 排水を良くする。 ○ 雨天の日に収穫すると発病が多くなるので、晴天の日を選んで収穫する。 ○ たまねぎに傷を付けない。 ○ 貯蔵場所は、低温、乾燥した場所を選ぶ。 ○ 夏期の直射日光に当たる場所には貯蔵しない。
軟腐病	収穫前 収穫後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雨天の日に収穫すると発病が多くなるので、晴天の日を選んで収穫する。 ○ たまねぎに傷を付けない。 ○ 貯蔵場所は、低温、乾燥した場所を選ぶ。 ○ 夏期の直射日光に当たる場所には貯蔵しない。

(2) 農薬の使用
○たまねぎ (殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	乾 腐 病	黒 斑 病	さ び 病	腐 敗 病	灰 色 か び 病	べ と 病	
1	ベノミル	ベンレート水和剤	○						●使用方法「3分間苗根部浸漬」のみ採用 ●乾腐病のみ採用
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○						●使用方法「5分間苗根部浸漬」のみ採用
U18	バリダマイシン	バリダシン液剤5				○			●腐敗病のみ採用
M3, I:UN	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤		○	○			○	●黒斑病、さび病、べと病のみ採用
M5	TPN	ダコニール1000					○	○	
43/40	フルオピコリド／ベンチア パリカルブイソプロピル	ジャストフィットフロアブ ル						○	●使用方法「散布」のみ採用
40/M3, I:UN	ジメトモルフ／マンゼブ	フェスティバルC水和剤						○	
40/M05	ジメトモルフ／TPN	カーニバル水和剤						○	●べと病のみ採用

○たまねぎ（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	タ ネ バ エ	ネ ギ ア ザ ミ ウ マ	ネ ギ ハ モ グ リ バ エ	備考
1B	MEP	スミチオン乳剤（注1）	○				防除指針では「アブラムシ類」で掲載
1B	PAP	エルサン乳剤	○				防除指針では「アブラムシ類」で掲載
1B	ダイアジノン	ダイアジノン乳剤40	○		①	○	防除指針では「アブラムシ類」、「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
1B	ダイアジノン	ダイアジノン粒剤3（注1）		○			防除指針では「タネバエ」で掲載
1B	プロチオホス	トクチオン乳剤			①		防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
1B	マラソン	マラソン乳剤（注1）	○		①		防除指針では「アブラムシ類」、「ネギアザミウマ」で掲載
3A	シペルメトリン	アグロスリン乳剤			①		防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤			①		防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー顆粒水和剤			①		防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
5	スピネトラム	ディアナSC			①	○	防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
30	フルキサメタミド	グレーシア乳剤（注2）			○		防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
-	フロメトキン	ファインセーブフロアブル			①		防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載

①アザミウマ類での登録

（注1）同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので使用する際は農業の容器（袋）のラベルを確認する

（注2）麟茎類（根物、ただし、にんにく、らっきょうを除く）

ねぎ

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
黒腐菌核病	植付前 定植時	<ul style="list-style-type: none">○ 連作をしない。○ 発病畑では、4～5年間他作物の輪作を行う。○ 無病苗を選んで定植する。
黒 斑 病	生育中	<ul style="list-style-type: none">○ 肥料切れにならないように注意する。
さ び 病	植付前 生育中	<ul style="list-style-type: none">○ 堆肥、石灰を十分に施用する。○ 肥料切れにならないように注意する。
軟 腐 病	生育中 収穫前 収穫後	<ul style="list-style-type: none">○ 雨天の日に収穫すると発病が多くなるので、晴天の日を選んで収穫する。○ 貯蔵場所は、低温、乾燥した場所を選ぶ。○ 夏期の直射日光に当たる場所には貯蔵しない。
べ と 病	植付前 生育中	<ul style="list-style-type: none">○ 連作をしない。○ 発病畑では、3～4年間他作物の輪作を行う。○ 排水、風通しのよい畑地を選ぶ。○ 早期に罹病株を抜き取るとその後の発病を少なくするので効果が高い。

(2) 農薬の使用法

○ねぎ (殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	べと 病	黒 斑 病	葉 枯 病	さ び 病	軟 腐 病	備考
7	ピラジフルミド	パレード20フロアブル		○	○	○		
11	アズキシストロビン	アミスター20フロアブル	○	○		○		●使用方法「散布」のみ採用
11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル		○		○		
2	イプロジオン	ロブラール水和剤		○				●希釈倍率使用量「1000倍」を採用 ●黒斑病のみ採用
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル				○		●さび病のみ採用
3	トリホリン	サブロール乳剤				○		●希釈倍率使用量「800倍」を採用
3	マイクロブタニル	ラリー水和剤				○		
19	ポリオキシシン水和剤	ポリオキシシンAL水和剤		○				
P2	プロベナゾール	オリゼメート粒剤					○	
M1	ノニルフェノールスルホン酸銅	ヨネポン水和剤	○				○	●べと病、軟腐病のみ採用
M3, I:UN	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤	○	○		○		
M3, I:UN	マンゼブ	ペンコゼブ水和剤				○		●さび病のみ採用
M3, I:UN	マンゼブ	ペンコゼブフロアブル	○	○		○		●希釈倍数使用量「600倍」を採用
-	シュードモナスロデシア	マスタピース水和剤※						① ※野菜類（だいこん、はくさい、ブロッコリー、キャベツ、レタス、非結球レタス、かぼちゃ、ズッキーニ、しょうが、トマト、ミニトマトを除く）での登録 希釈倍数使用量「1000倍」を採用
21/27	アミスルブロム/シモキサニル	ダイナモ顆粒水和剤	○					
3/M3, I:UN	シメコナゾール/マンゼブ	テーク水和剤	○	○		○		●べと病、黒斑病、さび病のみ採用
40/M1	ジメトモルフ/塩基性塩化銅	フェスティバルC水和剤	○					
40/M3, I:UN	ベンチアパリカルブイソプロピル/マンゼブ	ベネセット水和剤	○	○				●希釈倍数使用量「750倍」を採用
40/M5	ジメトモルフ/TPN	カーニバル水和剤				○		●さび病のみ採用
40/M5	ベンチアパリカルブイソプロピル/TPN	プロポーズ顆粒水和剤	○					●べと病のみ採用
M7/M3, I:UN	イミノクタジナルベシル酸塩/マンゼブ	サーガ水和剤		○		○		●黒斑病、さび病のみ採用
39, I:21A	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤				○		●さび病のみ採用
24/M01	カスカマイシン/銅水和剤	カスミンボルドー					○	
31/24	オキシリニック酸/カスカマイシン	カセット水和剤					○	
7	インピルブルキサム水和剤	カナメフロアブル				○		●さび病のみ採用
U17	ピカルブトラゾクス	ピシロックフロアブル	②					●べと病のみ採用

①野菜類（だいこん、はくさい、ブロッコリー、キャベツ、レタス、非結球レタス、かぼちゃ、ズッキーニ、しょうが、トマト、ミニトマトを除く）での登録

②鱗茎類での登録

○ねぎ（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	タ ネ バ エ	ネ ギ ア ザ ミ ウ マ	ネ ギ コ ガ	ネ ギ ハ モ グ リ バ エ	備考
1B	MEP	スミチオン乳剤（注）				○		防除指針では「ネギコガ」で掲載
1B	PAP	エルサン乳剤	○		①			防除指針では「アブラムシ類」、「ネギアザミウマ」で掲載
1B	ダイアジノン	ダイアジノン乳剤40			①	○		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギコガ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
1B	ダイアジノン	ダイアジノン粒剤3（注）		○				防除指針では「タネバエ」で掲載
1B	マラソン	マラソン乳剤（注）	○		①			防除指針では「アブラムシ類」、「ネギアザミウマ」で掲載
						②		防除指針では「ネギハモグリバエ」で掲載
3A	シベルメトリン	アグロスリン乳剤				○	○	防除指針では「ネギコガ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤			①			防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
4A	クロチアニジン	ダントツ水溶剤			○	○		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
4A	クロチアニジン	ダントツ粒剤			○	○		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
4A	ジノテフラン	アルバリン粒剤			①	②		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
4A	ジノテフラン	スタークル顆粒水溶剤		○	①	②		防除指針では「タネバエ」、「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
4A	ジノテフラン	スタークル粒剤			①	②		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
4A	チアメトキサム	アクタラ粒剤5			○	○		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
4A	ニテンピラム	ベストガード粒剤			○	○		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
						○		防除指針では「ネギハモグリバエ」で掲載
5	スピネトラム	ディアナSC			①	○		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤			①			防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
6	アバメクチン	アグリメック			①			防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
28	シアントラニプロール	ベネビアOD			①	②		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
28	シアントラニプロール	ベリマークSC			①	②		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
29	フロニカミド	ウララDF			○			防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
UN	ピリダリル	プレオフロアブル			○			防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
-	フロメトキン	ファインセーブフロアブル			①	○		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載
21A, F:39	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤			①	○		防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギコガ」で掲載
28/4A	クロナトラニプロール/チアメトキサム	ジュリボフロアブル		○	○	○		防除指針では「タネバエ」、「ネギアザミウマ」、「ネギハモグリバエ」で掲載

①アザミウマ類での登録

②ハモグリバエ類での登録

(注) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する

にら

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
さび病	植付前 生育中	<ul style="list-style-type: none">○ 堆肥、石灰を十分に施用する。○ 肥料切れにならないように注意する。
白斑葉枯病	植付前 生育中	<ul style="list-style-type: none">○ 多湿にしない。○ マルチ資材を用いることにより、発生を抑制できる。○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。

(2) 農薬の使用法
○にら (殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	白 斑 葉 枯 病	葉 腐 病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤	○		●白斑葉枯病のみ採用
7	ペンチオピラド	アフェットフロアブル	○		●白斑葉枯病のみ採用
11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル	○		●白斑葉枯病のみ採用
12	フルジオキソニル	セイビアーフロアブル20	○		
U18	バリダマイシン	バリダシン液剤5		○	●葉腐病のみ採用
M1	銅水和剤	Zボルドー	○		
BM2	パチルス アミロリクエファ シエンス	インプレッションクリア	○		

○にら (殺虫剤)

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	ネ ギ ア ザ ミ ウ マ	ネ ギ コ ガ	ネ ダ ニ 類	ハ モ グ リ バ 工 類	備考
1B	プロチオホス	トクチオン細粒剤F				○		防除指針では「ネダニ類」で掲載
3A	シベルメトリン	アグロスリン乳剤		○	○		○	防除指針では「ネギアザミウマ」、「ネギコガ」、「ハモグリバ工類」で掲載
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	○	①				防除指針では「アブラムシ類」、「ネギアザミウマ」で掲載
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー1粒剤		①				防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載
5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤		①				防除指針では「ネギアザミウマ」で掲載

①アザミウマ類での登録

ばれいしょ
 (1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
疫 病	植付前 堀取時 堀取後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無病の種いもを植付ける。 ○ 窒素肥料を多用しない。 ○ 堀取は、天気の良い日を選んで行う。 ○ 被害茎葉を集めて焼却する。
黒あざ病	植付時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無病の種いもを植付ける。 ○ 連作をしない。 ○ 石灰などを施用して土壌酸度を矯正する。
そうか病	植付時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無病の種いもを植付ける。 ○ 連作をしない。 ○ 石灰やアルカリ性肥料を使用しない。(石灰を使用する場合は前作に使用する)
炭 疽 病	植付時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無病種いもを選ぶ。 ○ 病株を処分する。 ○ 発病地は3年以上他作物を作付ける。
軟 腐 病	植付前 堀取後～貯蔵時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連作をしない。 ○ 排水に注意し、高畝栽培する。 ○ 窒素肥料を多用しない。 ○ 堀取の際は傷をつけないように注意し、無傷のものだけを貯蔵する。
モザイク病	植付時 植付後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 種いもは、毎年更新し、優秀なものを植付ける。(農林水産省植物防疫所発行の検査合格書が添付されたものなど) ○ 発病株は、早期に抜き取って焼却する。 ○ 媒介昆虫のアブラムシの発生に注意する。

(2) 農薬の使用方法
 ○ばれいしょ(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	疫 病	夏 疫 病	
M1	銅水和剤	サンボルドー	○		
M1	銅水和剤	ドイツボルドーA	○		
M1	銅水和剤	ボルドー	○		
M1	銅水和剤	Zボルドー	○		●疫病のみ採用
M1	銅水和剤	コサイド3000	○		●疫病のみ採用
M3, I:U N	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤	○	○	
M3	マンネブ	エムダイファー水和剤	○		
M5	TPN	ダコニール1000	○		●疫病のみ採用
49/11	オキサチアピプロリン/ ファモキサドン水和剤	ゾーベックエンカン ティアSE	○		
M1	銅水和剤	クプロシールド	○		●無人航空機による散布を採用
M1/M2	硫黄・銅水和剤	イデクリーン水和剤	○	○	

○ばれいしょ（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	オ オ ニ ジ ュ ウ ヤ ホ シ テ ン ト ウ	ケ ラ	ジ ャ ガ イ モ ガ	ハ リ ガ ネ ム シ 類	備考
1A	NAC	マイクロデナボン水和剤85		○				防除指針では「オオニジュウヤホシテントウ」で掲載
1B	アセフェート	オルトラン水和剤	○	①		○		防除指針では「アブラムシ類」、「オオニジュウヤホシテントウ」、「ジャガイモガ」で掲載
1B	ダイアジノン	ダイアジノン乳剤40	○	②				防除指針では「アブラムシ類」、「オオニジュウヤホシテントウ」で掲載
1B	ダイアジノン	ダイアジノン粒剤5			○			防除指針では「ケラ」で掲載
3A	ペルメトリン	アディオソ乳剤	○	③				防除指針では「アブラムシ類」、「オオニジュウヤホシテントウ」で掲載

①テントウムシダマシ幼虫での登録

②テントウムシダマシでの登録

③テントウムシダマシ類での登録

さといも

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除時期	防 除 方 法
乾 腐 病	植付前	○ 風通しの良い無病地に栽培し、発病地では3年以上の輪作とする。
紫紋羽病	植付前	○ 発病地では、4～5年間罹病しやすい野菜を栽培しない。（発病しやすい野菜は、にんじん、ごぼう、さといも、さつまいも、アスパラガスなど） ○ 果樹類や桑園の跡地では特に注意を要する。 ○ 石灰窒素を75kg/10a散布して耕起する。

(2) 農薬の使用方法

○さといも（殺菌剤）

RACコード	有効成分の名称	農薬の名称	乾腐病	備考1
I:8F,F:-	ダゾメット	ガスタード微粒剤	○	さといも:「乾腐病」のみ採用
I:8F,F:-	ダゾメット	バスアミド微粒剤	○	さといも:「乾腐病」のみ採用

(2) 農薬の使用方法

○さといも (殺虫剤)

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	備考
1B	P A P	エルサン乳剤	○	防除指針では「アブラムシ類」で掲載

だいこん

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
萎 黄 病	植付前 生育中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 発病地では連作せず、4～5年間だいこんの作付けを休む。 ○ 抵抗性品種を使用する。 ○ 発病株は抜き取り焼却する。
黒斑細菌病	植付前 生育中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 連作しない。 ○ キスジノミハムシ、その他土壌害虫を防除する。
軟 腐 病	植付前 生育中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 風通しのよい無病地に栽培する。 ○ 発病の多い畑では、播種期をできるだけ遅らせるか、晩生品種を栽培する。 ○ 発病畑では、輪作年数を長くし、4～5年間はあぶらな科作物を作付けしない。 ○ 病原菌は、キスジノミハムシ、ナメクジ、カタツムリ、ネキリムシ、ネコブセンチュウ等の害虫による傷口から侵入するので、これらの害虫の発生に注意する。
モザイク病	植付前 生育中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 播種期を遅らせ、抵抗性品種を栽培する。 ○ 苗床を寒冷紗で被覆する。 ○ 秋まきのはくさい、だいこんに被害が多い。 ○ 発芽初期から、周辺の圃場も含めて媒介昆虫のアブラムシ類の発生に注意する。 ○ 発病株は、抜き取り処分する。

(2) 農薬の使用法

○だいこん(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	黒斑 細菌病	軟腐 病	べと 病	備考
31	オキシリニック酸	スターナ水和剤		○		
M1	銅水和剤	サンボルドー			○	
M1	銅水和剤	Zボルドー	○			●黒斑細菌病のみ採用
M1	ノニルフェノールスルホン酸銅	ヨネポン水和剤	○	○		●黒斑細菌病、軟腐病のみ採用

○だいこん（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア オ ム シ	モ モ ア カ ア ブ ラ ム シ	※ ※ ※	※ ※ ※	カ ブ ラ ハ バ チ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ナ ガ	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ	備考
1A	NAC	デナボン5%ベイト								○		防除指針では「ネキリムシ類」で掲載
1B	CYAP	サイアノックス乳剤	○	○	○						①	防除指針では「アオムシ」、「ダイコンアブラムシ」、「ニセダイコンアブラムシ」、「ヨトウムシ」で掲載
1B	PAP	エルサン乳剤	○	○	○	②	○				○	防除指針では「アオムシ」、「ダイコンアブラムシ」、「ニセダイコンアブラムシ」、「カブラハバチ幼虫」、「キスジノミハムシ」、「ヨトウムシ」で掲載
1B	PAP	エルサン粉剤2	○	○	○							防除指針では「アオムシ」、「ダイコンアブラムシ」、「ニセダイコンアブラムシ」で掲載
1B	イソキサチオン	カルホス粉剤								○		防除指針では「ネキリムシ類」で掲載
1B	ダイアジノン	ダイアジノン粒剤5						○				防除指針では「キスジノミハムシ」、「ネキリムシ類」で掲載
3A	テフルトリン	フォース粒剤						○				防除指針では「キスジノミハムシ」で掲載
3A	ベルメトリン	アディオン乳剤	○	○	○						○	防除指針では「アオムシ」、「ダイコンアブラムシ」、「ニセダイコンアブラムシ」、「ヨトウムシ」で掲載
4A	ジノテフラン	アルバリン粒剤		○	○	○	○					防除指針では「ダイコンアブラムシ」、「ニセダイコンアブラムシ」、「キスジノミハムシ」で掲載
4A	ジノテフラン	スタークル粒剤		○	○	○	○					防除指針では「ダイコンアブラムシ」、「ニセダイコンアブラムシ」、「キスジノミハムシ」で掲載
5	スピネトラム	ディアナSC	○				○	○			○	防除指針では「アオムシ」、「カブラハバチ」、「コナガ」、「ヨトウムシ」で掲載
6	エマメクテン安息香酸塩	アフーム乳剤	○							○		防除指針では「アオムシ」、「ネキリムシ類」で掲載
14	カルタップ	パダンSG水溶剤	○	○	○	○				○		防除指針では「アオムシ」、「アブラムシ類」、「コナガ」で掲載
14	テオシクラム	エビセクト水和剤	○	○	○	○				○		防除指針では「アオムシ」、「アブラムシ類」、「コナガ」で掲載
28	クロラントラニプロール	ブレバソフロアブル5	○				○	○			○	防除指針では「アオムシ」、「カブラハバチ」、「コナガ」、「ヨトウムシ」で掲載
28	フルベンジアミド	フェニックス顆粒水和剤								○		防除指針では「ネキリムシ類」で掲載
21A, F:39	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤	○	○	○	○			○	○		防除指針では「アオムシ」、「アブラムシ類」、「キスジノミハムシ」、「コナガ」で掲載
3A/1B	フェンバレレート/マラソン	ハクサップ水和剤	○	○	○						○	防除指針では「アオムシ」、「ダイコンアブラムシ」、「ニセダイコンアブラムシ」、「ヨトウムシ」で掲載

①若～中齢幼虫での登録

②幼虫での登録

※モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシに関しては、すべてアブラムシ類での登録

にんじん

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
菌核病	植付前	○ 発病地には作付けしない。 ○ 天地返しを行う。
黒葉枯病	生育中	○ 被害株は早期に抜き取って焼却する。 ○ 肥切れしないように注意する。
こぶ病	植付前	○ 排水不良畑での栽培は避ける。 ○ 過度の石灰質資材の施用は避ける。 ○ 完熟堆肥を施用する。
軟腐病	植付前	○ 風通しのよい無病地に栽培し、発病畑では3年以上の輪作とする。 ○ 気温25～30℃、湿度85%以上の時に発生しやすいので、発病の多い畑では、播種期をできるだけ遅らせるか、晩生品種を栽培する。
紋羽病	植付時	○ 発生地では、4～5年間罹病しやすい野菜を栽培しない。(罹病しやすい野菜はにんじん、ごぼう、さといも、さつまいも、アスパラガスなど)

(2) 農薬の使用方法

○にんじん(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	黒葉 枯病	備考
19	ポリオキシシン水和剤	ポリオキシシンAL水和剤	○	
M1	銅水和剤	Zボルドー	○	●黒葉枯病のみ採用
M1	銅水和剤	コサイド3000	○	
M7	イミノクタジンアルベシ ル酸塩	ベルケート水和剤	○	●黒葉枯病のみ採用
M7	イミノクタジンアルベシ ル酸塩	ベルケートフロアブル	○	●黒葉枯病のみ採用

○にんじん（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	キ ア ゲ ハ	ヨ ト ウ ム シ	備考
1B	P A P	エルサン乳剤	○		○	防除指針では「アブラムシ類」、「ヨトウムシ」で掲載
1B	マラソン	マラソン乳剤	○	○		防除指針では「アブラムシ類」、「キアゲハ」で掲載
13	クロルフェナピル	コテツフロアブル		○	○	防除指針では「キアゲハ」、「ヨトウムシ」で掲載